

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価					
作成日		令和4年3月31日			
法人名	園名				
社会福祉法人 照治福祉会	阿武山たつの子認定こども園				
まとめ	全体平均		4.16		
第2章第2節 乳児期の園児 の保育	担当制の保育を行い、毎日決まった保育教諭が決まった子どもの世話をすることで、子どもは安心して一日を過ごすことが出来ている。ゆったりとした雰囲気の中、一人ひとりが心地よく過ごせるよう保育者は環境を整備し、応答的に関わりながら子どもからの発信に細やかに気づき、丁寧に保育を行ってきた。日々の生活内容について保護者とこまめに話すことで、家庭との連携も図ることが出来た。				
第2章第3節 満1歳以上満3 歳未満の園児 の保育	毎日同じ日課を過ごすことで、生活リズムが整い、安心して過ごすことが出来ている。個々の健康状態をよく見ながら、保育者同士で連携しあうことができた。身の回りのことに興味を示す子どもが増え、少しの環境の変化にも気付く子がいた。保育者の言葉を真似して話す姿も多く見られるため、丁寧に分かりやすい言葉で話すように意識して取り組んだ。				
第2章第4節 満3歳以上の園 児の教育及び 保育	子どもが興味を持ったことや不思議に思うこと、何をやりたいのかなど、友だちや保育者と一緒に考えながら保育を進める為、活動の内容についての理解が深まっている。また、一人ひとりが自分の気持ちを理解し表現する事が出来るようになってきている。更に友だちの気持ちにも気付けるようになり、一人ひとりが意見を言い、またそれを一生懸命に聞いて理解しようとする姿が多く見られるようになってきた。				
第2章第5節 教育及び保育 の実践に關わ る配慮事項	当園に通っている子どもだけでなくどの子どもも幸せになる権利があり、地域のどの子どもにも当園を利用して頂きたいという気持ちが全職員に浸透している。一時保育も出来る限り受け入れ、他国籍の子どもが利用されたときにもあたたかく迎え入れ、子ども同士言葉は通じなくても一緒に遊ぶうちに様々な事を学びながらお互いに成長する姿があった。				
第3章 健康及び安全	定期的に避難訓練や設備の点検を行い、日々安全に過ごすことが出来るようにしている。子どもの感染症やアレルギーについては、看護師を中心に園内の業務や対応の方法などしっかりと把握し、マニュアル化している。食育活動には乳児から取り組み、食材に触れるところから始まり、調理の職員との連携も取りながら進めている。地域の関係機関との連携を図ることは今後の課題である。				
第4章 子育ての支援	地域の子育て支援の拠点として福祉委員会の方々と連携し、取り組めていることは大きいと感じる。必要に応じた保護者への支援は園の中で行えていると思うが、一時預かりなどは受け入れ人数に限界があるため難しいこともある。保護者の要望には出来る限り応えられるよう連携を図るが、園の考えも提示しつつ、保護者にも協力して頂くことで、互いに同じ方向を向き、子育て、教育・保育を行っていく。				
第5章 職員の資質 向上	職員が主体的に学べるよう、興味関心に沿った内容の研修計画を練っている。キャリアパス研修などの自分の意志で受けられる研修と、全職員が揃って学び合う研修を併用しながら、様々な機会を提供している。参加して学ぶことでその楽しさを知り、他のことも学びたいと思えるようにすることが園全体の向上につながると考える。				
総合	一年を通して「子どもの主体性」を大切にする事を特に意識して取り組んだ。乳児であっても子どもの気持ちは尊重されるべきであり、その気持ちを汲み取るために保育者がしっかりとその様子を観察し応答的に関わる事が大切だと改めて確認し合った。一方で、新型コロナウイルスの感染対策に奔走した一年であったが、その隙間をぬって大きな行事は実施することが出来た。ただし、その内容や実施方法を全て1から考えなければならなかった事は職員にとって大きなプレッシャーであった。しかし厳しい状況下であっても前向きな力を發揮し、必死になって職員間で意見を出し合い迅速に実行できたことは、大きな自信となり、今後の保育や行事の運営にも活かしていくと思う。				
データ表					
内容	項目数	平均			
「乳児保育」	30	4.33			
「3歳未満児保育」	193	3.95			
「3歳以上児保育」	476	4.19			
「教育保育の配慮事項」	116	4.03			
「健康・安全」	689	4.28			
「子育ての支援」	306	4.02			
「職員の資質向上」	118	4.09			
計	1928	4.16			

